

周作クラブ会報

(第97号)
2024年11月28日発行

周作クラブ

◆主な記事◆

周作忌・総会報告	1〜2面
新発見書簡	3面
学会報告・会員寄稿	4面
会計報告・会則	5〜6面
原稿発掘	7面
遠藤周作文学館便り	8面
周作クラブ長崎便り	9面
お知らせ欄	10面

永井荷風と遠藤周作の共通点と相違点とは!?

フレッシュ鼎談と久々の立食での集い

命日の前日にあたる9月28日(土)、周作忌が開催された。第1部シンポジウムは慶應義塾大学・三田キャンパス内の北館ホールにて、第2部の「周作忌の集い」は西校舎「山食」で5年ぶりに対面で行われた。参加者は会場とオンライン併せて90名あまり(「周作忌の集い」もほぼ同数)という盛況ぶり。遠藤先生のイタズラも影を潜め、穏やかな天気の中での集いとなった。

●第1部・シンポジウム

(テーマ) 永井荷風と遠藤周作

——あるいは断腸亭と狐狸庵
——あるいは断腸亭と狐狸庵
最初に司会の加藤宗哉さんから今回のテーマ設定について説明があった。

「千葉県市川市と三田文学会が協力して



▲会場に置かれた遠藤周作先生の写真



▲たくさんの人が耳を傾けたシンポジウム

『永井荷風文学賞』を創設する。今年も荷風と三田文学がもう一度縁を取り戻す年。その関係で荷風研究と遠藤文学に詳しいお二人にパネリストをお願いした」(次頁に続く)

総会報告——第24回定時総会

「周作クラブ」第24回定時総会は、9月28日(土)、慶應義塾大学三田キャンパス内・北館ホールで12時半から開かれた。出席総数は、委任状167通を合計して計187名(過半数は168)で、総会は成立した。

会議に先立ち、宮辺尚幹事(会員担当)から会員数についての報告があった。この1年間に於ける入会者は26名、退会者は28名で、計2名の減少(前年度は1名減)。9月30日現在の会員総数は337名(ただし「周作クラブ長崎」「55名」は除く)。

この報告のあと、幹事会から推薦で会員の大原雄さんが議長として選出され、議事に移った。

●第1号議案——前年度事業報告

(加藤宗哉会長代行)

昨年の総会から本年8月までの事業は、▽2023周作忌(シンポジウム「遠藤周作——時代を超える文学」)(9/30 慶應義塾大学内東館G1 Lab)▽新年会(1/27 銀座松竹スクエア内レストラン)▽「遠藤文学・原点の旅」5/19▽20 長崎市遠藤周作文学館に生誕100年展を観る▽「会報」は予定通り計4回を発行。

●第2号議案——前年度会計報告

(一田佳希幹事)

前年度の収支および繰越金は別紙(本報5ページ参照)の通り。監査結果も報告され、すべて承認された。

●第3号議案——今年度事業計画

(今井真理幹事)

▽「新年会」を新宿のレストラン(本報10ページ参照)で開催(1/25)。▽遠

藤文学・原点の旅」のための「文学セミナー」を開催(4月予定)。「遠藤文学・原点の旅」(5/18〜19) ※詳細は本報10ページ参照▽年4回の「会報」発行。

●第4号議案——今年度予算

(一田幹事)

別紙(本報5ページ参照)の通りに提案されて承認。

●その他——役員について

本年1月に逝去した高橋千劍破幹事の後任として、亀岡園子、清水優子両氏を推薦することが幹事会から提案され、了承された。なお、会報委員として、新たに丸田明利、杉本佳奈の両氏に加わることが報告された。

周作クラブ役員・委員一覧

敬称略(項目中は五十音順)

会長代行 加藤宗哉

顧問 黒井千次

幹事 一田佳希(会計・編集担当)

今井真理(総務担当)

亀岡園子(編集担当)

清水優子(総務・編集担当)

宮辺尚(会員管理担当)

監査 大澤眞里/高田幸子

総務委員 石井由里亜(旅行担当)

/田村百合子

会報編集長 亀岡園子

顧問 山根道公

会報委員 大原雄/近藤恭弘/杉本佳奈/高木香織/丸田明利

【会計・会員管理】委員 伊東智香

/樋口(八木)文字

荷風は森鷗外の推薦で慶應義塾大学文学部の教授となり、「三田文学」を創刊、主宰をつとめた。また、第二次世界大戦後、市川市に在住していた。

まず、近代文学研究者で文芸評論家、荷風に関する著作が多い持田叙子^{のぶこ}さんが講演を行った。

「二人には共通項がたくさんある。落語や笑いの芸が好き。二人とも社会の競争から外れた翁として文芸評論をする。遠藤は荷風を読んで勉強して狐狸庵の笑いの芸を編み出したのではないかと思う」

続いて、『文豪ナビ 遠藤周作』（新潮文庫）で、新潮社刊の遠藤作品すべてをナビした作家の栗田有起さんが講演。

「私は長崎出身。荷風と遠藤作品を並べたときに、共通点がわからなかった。荷風はロマンチスト。耽美主義で美しいのが好き、フランスにかぶれたおしゃれな作家。遠藤作品はクリスマスチャンがたどった重く苦しい歴史。そのどこに共通点か？ と思ったが、狐狸庵先生がいた。狐狸庵先生の明るい作品も含め『遠藤先生の心の中にあつたのは、深く人間を知



▲パネリストの持田叙子さん（右）と栗田有起さん（左）

ること』だと思っ

る。その後加藤さんの質問に対してやり取りし、内容を掘り下げていった。

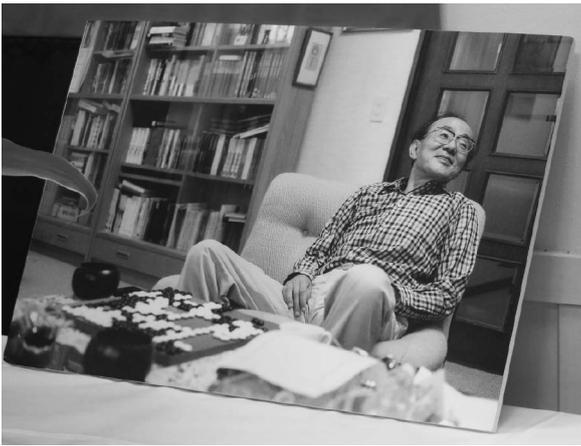
●第2部 周作忌の集い

懐かしい顔ぶれと久しぶりの会合を場所を西校舎「山食」に移して、5年

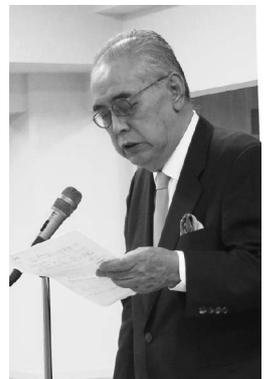
ぶりの立食パーティが行われた。まず、加藤宗哉さんが欠席の遠藤龍之介さんからのメッセージを代読した。

「父の教えで仕事に一番役に立っているのは、どこでも動揺しない心を植えつけてくれたこと。『きよときよとするな。食器は外側から使え。食べたあとに何かを飲むときには、ナプキンで口を拭え。ほかのお客さまを意味なく見るな。食べるペースはまわりに合わせろ』」

ここで加藤さんが「これは遠藤先生がフランスに留学していた時に、リヨンの



▲会場に飾られた遠藤先生の写真



▲遠藤龍之介さんの手紙を代読する加藤宗哉さん

家で言われたことですね」と解説。龍之介さんからのメッセージが続く。

「あるとき父に『普通の父親は息子を高い杉のように育てようと思うが、俺はお前をタツパはなくとも枝ぶりのいい盆栽のように育てようと思った』と言われた。私も今年で68歳、盆栽の松もすでに老松となりはじめています。今だに父のことを覚えてくださる皆さまがいらっしやるのは大きな喜びです」

続いて三田文学編集長の関根謙さんの乾杯の発声。しばし歓談に移り会場が話声であふれたころ、司会の亀岡園子さんから来場者の中から縁の深い方たちへのご指名があった。それぞれがマイクを持って、近況報告を行なった。

周作クラブ長崎代表高尾直子さん、長崎遠藤周作文学館館長貞包教雄さん、同学芸員林田沙緒里さん、町田市民文学館ことばランド学芸員神林由貴子さん、元



▲関根謙さん



▲貞包教雄さん（右）と林田沙緒里さん（左）

▼5年ぶりに行われた立食パーティー



同文学館学芸員で現在は立教大学江戸川乱歩記念大衆文学センター勤務の杉本佳奈さん、同文学館学芸員の能瀬紋美さん、軽井沢高原文庫大藤敏行さん。さらに、河出書房新社の太田美穂さんから、新刊の紹介があった。締め挨拶はおなじみの宮辺尚さん。

「山食」の美味しい料理に舌鼓を打ち、時間の許す限りおしゃべりを楽しんだひとときであった。（写真・文/高木香織）